第８１号-８５（2012年夏）　発行：桑名市議会　会派「希望」

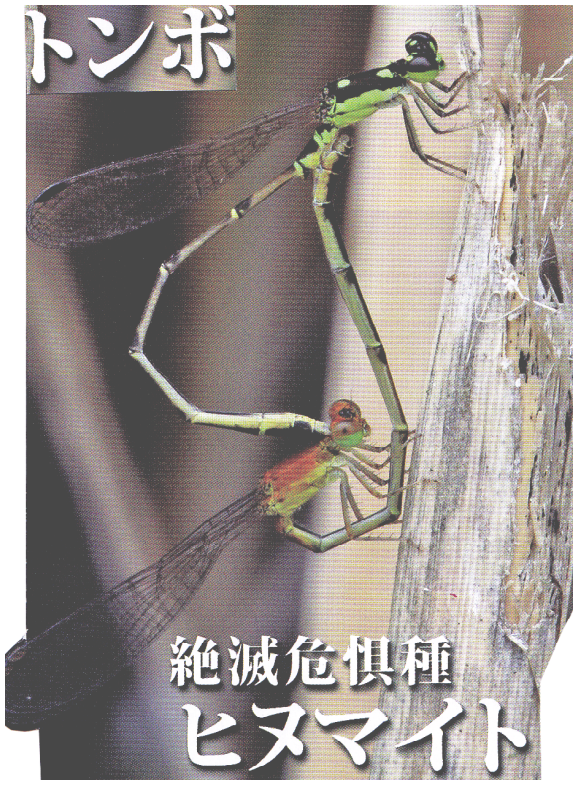
希望

住所：桑名市中央町 2-37
桑名市役所内　会派：希望

☆未来ある子ども達に「豊かな地球」を…！

自然の生態系を巡る問題点

・絶滅危惧種への対応策は？！
・「桑名版コップ１０」に絡み植物・生物の調査活動は？！



＜伊藤研司議員・発言の主旨＞

以前、市民の方から「絶滅危惧種」について情報をいただきました。
以後、絶滅危惧種に関し、所管と議論を重ねてきました。

絶滅危惧種については、「モンゴリナラ」と「ウンヌケ」についてです。

これまで、三重県内における記録はありませんでしたが、桑名市の丘陵地で生育していることが確認されました。

ここには、三重県レッドデータブック2005で絶滅危惧ⅠＡ類（最高ランク）に選定されているウンヌケも生育しており、生物多様性保全上とても重要な地域です。

しかし、県道１４２号に面しているため商業施設も多く、生育地の一部は削りとられ造成されたりして、危機的状況になっているのが現状です。…。

また、「モンゴリナラ」と「ウンヌケ」が、同じ場所で生育しているのは、この丘陵地のみとのことです。

《自然誌だより　三重自然誌の会情報誌８７号　2011年３月》より抜粋。

⇩

＜経済環境部長・発言の主旨＞

「三重県レッドデータブック２００５」から市内に生息していると思われる絶滅危惧種を抽出しますと、植物ではウンウケ・オニバス・ヒメシオンなど、鳥類ではチュウヒなど、汽水・淡水魚類ではウシモツゴなどが近い将来にお

ける絶滅の危険性が極めて高い種として掲載されています。

ウンヌケが生育している桑名市の丘陵地におきましては、ご紹介のとおり、モンゴリナラも確認されているところです。…。

こうしたことに対して、桑名市では、平成２０年から野生生物の種の保存及び多様性の確保並びに良好な環境に関する環境教育を推進するため、自然環境保護推進員の方々によって市内の自然環境調査を継続的に行って頂いているところです。…。

平成２２年には生物多様性条約第１０回締結国会議（ＣＯＰ１０）のパートナー事業として、パネルや標本等の展示会と養老孟司先生の講演会など、「生きもの文化祭」として開催し、多くの皆さまにご参加いただきました。

現在、これまでの調査結果をとりまとめた報告書の年度内完成に向け、自然環境保護推進員の先生方と共に、編集作業を進めています。

近くて遠い国→「韓国・朝鮮」との友好自治体拠点遺跡として！

壬申の乱と桑名（多度天王平）の位置付けを！

＜伊藤研司議員・発言の主旨＞

壬申の乱とは、６７２年壬申の年の６月、天智天皇の子→大友の皇子×天智天皇の弟→大海人皇子（おおあまのおうじ）との間の皇位継承権をめぐる約１ヶ月に及ぶ古代最大の内乱で、大海人皇子が大友皇子を破り、６７３年正月、大海人皇子は天武天皇に即位。以降、律令制的国家体制の導入によって、天皇への権力が集中したのでした。

壬申の乱より遡ること約１０年、６６３年には白村江の戦いがありました。

大日本帝国陸地測量部が
明治２４年に測定した地図

白村江の戦い→唐・新羅の連合軍に攻略された百済の援助に向かった天智天皇が指揮する日本軍は、この地で海戦を行うが大敗。その結果、百済は滅亡し、日本は、朝鮮を放棄したのでした。
白村江の戦いより遡ること３年の６６０年（斉明天皇６年）に、百済は唐・新羅の連合軍によって滅ぼされている。この後、百済の遺臣たちは、百済復興の兵をあげ、倭国（日本）に滞在・亡命していた百済王の太子・豊璋（ほうしょう）を擁立しようと倭国・日本に援助を要請した。

壬申の乱では、以前に新羅から移住者・帰化した人々や百済からの亡命者した人々が、軍人・指揮官として活躍。

多度小学校鉄筋３階校舎建設に伴う発掘。昭和４９年

論苑（ろんえん）考古学　天山舎の《湯沐邑周辺と遺跡》↓
『…美濃国安八磨郡の湯沐邑（ゆのむら→領地）は、伝統を踏まえて大海人皇子の軍事的・経済的な基盤であった。……。

この背景の一つに、湯沐邑のあった安八磨郡内および周辺に、赤鉄鉱の山である標高２１７メートルの金生山（きんしょうざん）より産する鉄と、生産保管された武器庫が存在していたと考えることができないだろうか。
大海人皇子が極めて早く、この武器を掌握したことが「乱」の勝敗を大きく左右したし、大海人皇子方に加わった東海・東軍の軍勢に対し、豊富な武器の供給を容易にしたものだろう……。』　―以上―

１、地理的から桑名を押さえることは、不破（関ヶ原）、鈴鹿の関を押さえることにつながる。揖斐・長良・木曽の三大河川のデルタ地域に隣接する桑名は美濃・尾張・三河からの軍勢の移送、食糧を運ぶための要所。

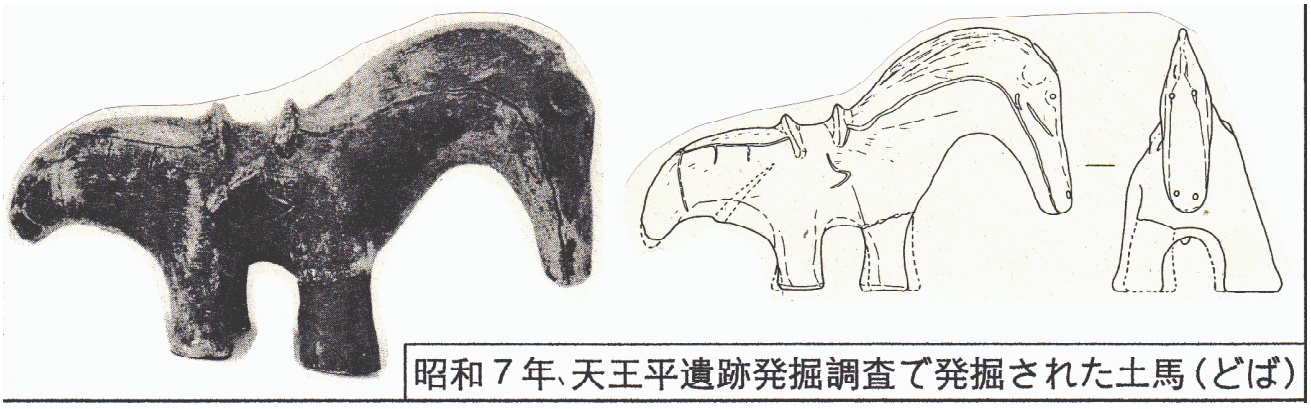
２、大海人皇子は、桑名郡家に到着し、高市皇子（たけちのみこ）に進言されるまでは、不破の関と鈴鹿の関の中間点に位置する桑名郡家に行宮（あんぐう）を造り、指揮することを考えていた。

しかし、高市皇子（たけちのみこ）に進言され、大海人皇子は、鵜野讃良皇女（うののさららのみこ）に兵站基地での指揮を任せた。

鵜野讃良皇女（うののさららのみこ）（後の持統天皇）は、か弱い女性と思われがちですが、実際は大海人皇子の右腕で、軍人でも指揮官でもあった。吉野を脱出した時に付き添ってきた舎人の多くは、鵜野讃良皇女の出身地とされる山城国讃良郡近郊の氏族。　鵜野讃良皇女が兵站基地で指示をするのは当然。

３、多度大社は、桑名首の祖先神：天津彦根命（あまつひこねのみこと）を祀る。

刀・斧（おの）をつくり、活躍された神で金属工業の守護神でもある。



昭和７年、天王平遺跡発掘調査で発掘された土馬（どば）

４蛎塚説→「天正元亀以前の図」に蛎塚の地に「天武社」が記載されている。それからと推測さる。

確認するため、神主さんのご協力で、法務局で縣神社の謄本を調べていただいた。すると、縣神社は、天穂日命（あめのほひのみこと）：農業神・稲穂の神を祭っていることが分かった。

以上から判断しますと、蛎塚説を言うには無理がある。

５、南小山廃寺・天王平・北小山廃寺・柚井一帯でこれまでに発掘された土馬・須恵器・土師器・墨書土器・木簡（時代は後。桑名市博物館に展示）等の遺物や戸津地域が果たした役割から判断すると、天王平を中心としたこの地域に桑名郡家が位置していたと私は考える。

結論的には、１～５迄の内容、さらに大日本帝国陸地測量部が明治２４年に測量した地図、古代地図…等から、地理的・戦略的に考えると、鵜野讃良皇女（後の持統天皇）が壬申の乱時に滞在し、美濃・尾張地域からの食糧・

兵器を輸送するための中継基地としていた兵站基地は、天王平や戸津を中心とした一帯であったと強く推察されるのです。

⇩

＜教育長・答弁の主旨＞

……。桑名から不破の関へのルートは多度をとおり、養老山地沿いを北上したと伝えられています。

研司議員から、ご紹介のありました「天王平・てんのうびら」が重要な場所であった可能性が高いという説も、発掘調査や古代の地形から十分想像できます。

また、多度神社の別館である「一目連神社・いちもくれん」に祀られているご祭神が「天目一箇命・あめのまひとつのみこと」で金属の神と言われており、「壬申の乱」で、大海人皇子のもう一つの拠点であったのが、今の大垣周辺で、ここに位置する「金生山・きんしょうざん」で鉄を産出していたと考えられています。

古代における鉄は、武器などをつくるために大きな価値を持っていました。多度の地で、鉄が取れたかは定かでありませんが、こうした鉄という視点で見ることで、大海人皇子が桑名市や大垣周辺を押さえていたことに、大きなロマンを感じられます。……。

こういったことから、桑名における「壬申の乱」は。古代史のファンが大変注目している出来事であり、平成２０年度に教育員会が行いました歴史講演会でも取り上げましたところ、１２０名以上の来場者がありました。

教育委員会と致しましては、こうした地域の歴史を活用した“まちづくり”を進めるうえで、「天王平」に健康増進施設の建設も予定されていますことから「壬申の乱」に関する文化財案内版を設置するなど、歴史ロマンの地「天王平」の周知を、関係部局と連携をはかりながら検討してまいりたいと考えています。

交通体系を巡る問題

＜伊藤研司議員・発言の主旨＞

【桑員間軽鐵問題】明治４０年２月１３日　三重新聞↓

『……四日市菰野間、軽便鉄道線路を延長し菰野より三重郡朝上村田光川を経て、員弁群阿下喜間に通じ、美濃の関ヶ原へ貫通せん計画を立て……』

壮大な計画があったことが記載されています。

北勢線沿線には、いなべ総合学園　桑名工業高校　桑名高校と県立の高等学校３校があります。

さらに、いなべ市・東員町・桑名市と３つの自治体を走っていますので、三重県が財政的支援も行うべき…！と考えています。

北勢線は、当局の努力もあり、地方鉄道では全国的にも珍しく、乗客数が上昇しています。

私が本議会で、「若者の出会いの場+北勢線の活性化」を提言。
Ｈ１９年から、「素敵な出逢いの旅」事業が行われています。

⇩

＜経済環境部長・答弁の主旨＞

……。平成２５年度以降の北勢線への支援でございますが、これまで、沿線自治体と三岐鉄道で組織しています北勢線対策推進協議会の幹事会におきまして、国や県の助言・意見を受けつつ検討して参りました。……。

今後、平成２５年度の支援額や平成２６年度以降の対応については、沿線市町において協議を進めて行く中で、研司議員のご提案につきましても参考にさせて頂きながら、議論を重ねていきたいと考えています。

早生まれ児童への配慮を…！

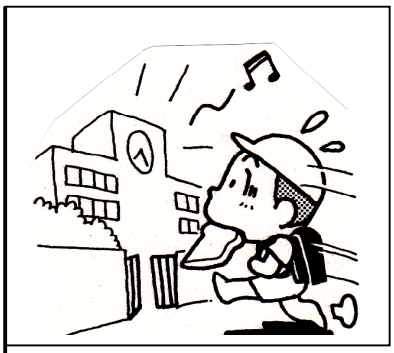
＜伊藤研司議員・発言の主旨＞

東京都大田区の私立清明学園初等部では、一学期は遊びを通して数や図形の概念を身に付けさせる。……。

「足し算、引き算」の問題を一年生に解かせ、誤回答を調べている。すると、年度初めに生まれた子ほど間違いが少ない。

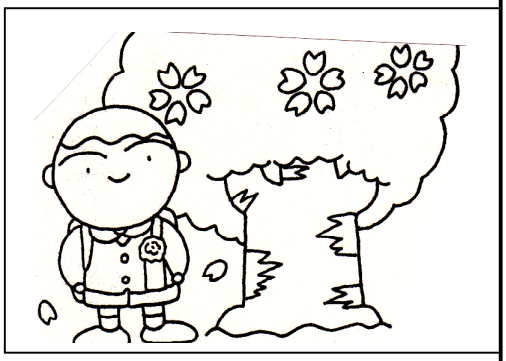
しかし、約五ヶ月間で早生まれの子は４～６月生まれの入学直後のレベルに追いつく。

「数の概念が身に付くのは、六歳半。その前に算数を教えても理解出来ない」（横山豊治初等部長）と結論づけた。



横浜市立立野小学校では、昨年度から、入学後の一ケ月間を生まれ順に割り振った「仮クラス」で過ごす「仮学級編成」を導入した。

新入生の早生まれのクラスには担任を持たないベテラン教諭が入り、給食の準備を早めに始めるなど工夫する。　担任は４・５日ずつ交代し、一ケ月で全クラスを回って学年全体を把握する。



大内美智子校長は「小学校の入り口段階で、発達の早い子と同じクラスになって焦るより、早生まれの子ども同士で達成感を持たせ、少しずつ順応させたい」と話す。……。

早稲田大学大学院教職研究科の菅野静二教授は、幼小中での教員経験から「入学直後に感じる能力の差も三、四年生ごろにはなくなる」と断言する。

人と交わる経験や、兄弟の有無などの要因の方が大きい、とも。「のんびりした個性を早生まれと結び付けて一人で悩む親がいるとしたら、そちらの方が心配。“気にすることはないよ”と情報交換できる親同士の関係を築いて欲しい」と話す。　　↑以上は、《中日新聞　２０１２年６月１日》

学校現場での早生まれ児童に対しての見守り、指導についてお聞きします。

⇩

＜教育部長・答弁の主旨＞

早生まれの児童につきましては、家庭環境などのことも考えられますが、小学校入学時では早生まれ児童とそうでない児童には、発達の差が見受けられます。

学期が進むにつれて、その差も少なくなってまいりますが、一人っ子で早生まれのお子様を持たれる保護者にとっては、お子様の様子について何かとご心配の向きもあろうかと存じます。

これまでも小学校１年生の教育におきましては、４月当初の席替えの際に配慮したり、担任の目が届きやすくするように３０人学級にしたりと、一人ひとりの児童を大切にする教育を進めてまいりました。

今後も児童や保護者の心情に寄り添い、早生まれの児童への配慮も踏まえながら、環境づくりに努めてまいりたいと考えています。

希　望

私たち４名の議員（清水教代、伊藤恵一、倉本崇弘、伊藤研司）で以下の目的（大項目）を達成するために会派「希望」を結成しました。
①脱原発、クリーンエネルギーの普及を目指す。
②すべての人の総幸福度の向上を目指す。
③すべての人の命を未来に向かってしっかりとつないでいくことを目指す。

以上です。

会派「希望」所属議員の主な質問及び当局の答弁。

質問：災害弱者の避難安全対策について
答弁：援護の必要な方を把握し、本人・家族からの意思表示により、地域で支えられる体制作りを進める。

質問：３・１１東北大震災の視察先において、地域の人たちから聞き取りから、「高速道路へ避難した人たちが助かった」との話しを聞いた。高速道路への避難について?
答弁：津波の際には、高速道路は命を救う道路であり、避難所として利用できるよう要望している。
☆ 避難場所として可能となりました。（中日新聞７月１２日報道記事参照）

質問：放射能から子ども達を守るために、学校給食の検査を希望。
答弁：今後、マニュアルを作成後、検査機関で実施したい。

質問: 市長も脱原発宣言している。再生可能エネルギーを積極的に取り入れ、「桑名版脱原発ロードマップ」の道筋を示し、エネルギーの自給自足を目指す都市として打ち出すべき!
答弁:（仮称）桑名市スマートエネルギープランの中で再生可能エネルギーの推進と言う考え方を入れて事業化を検討する。

災害時、市民の方々への緊急連絡の手段に関して当局へ提言

桑名市は伊勢湾台風で多くの方々（旧長島→３６３名、桑名→１９７名）を亡くしています。東海・南海地震災害の危険性が叫ばれている今日的状況を踏まえ、災害時、市民の皆様方へ「注意報・警報・災害情報・避難情報」をはじめ、緊急連絡の手段を「携帯電話」で行うように提言しました。
１，市民による「防災みえ　配信メール」の登録
２，市民による「桑名市の災害時緊急メール」の登録。

2012 年 6 月議会「主な補正金額」の概要

＜補正金額　/　合計金額＞

【新病院整備関係】１５億６千９３７万２千円

新病院建設に伴う用地取得費・建物補償費等、桑名市総合医療センターへの出資・貸し付け・交付金

【療養介護給付費: 障害者自立支援】２千６１３万１千円/４千４４０万円

１８歳以上の医療型施設入所者に係る療養介護給付費の増額

【放課後児童対策費】５千２１０万４千円/６千８５６万７千円

学童保育所の新設に伴う運営費等（新規施設→大成学童保育所。分割→大山田東学童保育所、レインボー駅前）

【スマートエネルギープラン作成費】　４１５万９千円

今後の桑名市におけるエネルギー政策の施策方針となる「（仮称）桑名市スマートエネルギー構想」策定経費

【寄付講座支援事業費】　３１５万円

桑名地域の周産期医療確保のための寄付講座設置経費。鈴鹿医療科大学。

☆ 詳細は、中日新聞７月１０日　地方版に写真入りで掲載。

【特定外来生物防除事業費】　２４３万８千円

特定外来生物（ヌートリア）による水稲・野菜への被害防止のため、防除活動に従事するスタッフを雇用するための経費（一人・９ヶ月）

【総合運動公園整備事業費】　２千万円/７千９９３万円

総合運動公園の追加工事（園路、東屋、縁台の整備）

【安全管理対策施設整備費】１千２４０万円/４千９４７万９千円

城東小学校屋上フエンス設置及び体育館窓ガラス飛散防止フィルム貼り付け工事費

【安全管理対策施設整備費】１千３３０万円/１千９４３万６千円

陽和中学校屋上フエンス設置及び体育館窓ガラス飛散防止フィルム貼り付け工事費

今議会　話題になつた主な議題

「くわな　子どもを虐待から守る都市宣言に関する請願書」が、桑名市自治会連合会、桑名市民生委員・児童委員協議会連合会、桑名医師会、桑名市人権擁護委員会…等１３団体から提出されました。

賛成→２４名、反対→３名、退席→１名、欠席→１名、（議長は除く）の賛成多数で採択されました。（詳しくは、ＨＰで掲載されます）

三重県レッドデータブック（２００５版）　植物・きのこ

桑名市に生息している２０種類の植物が記載されています。一部を記載します。

【キンラン】: 多度山に生息。雑木林の木漏れ日に照らされて輝くさまは、金襴の名に相応しい。元々、日本では、ありふれた「和らん」の一種であったが、１９９０年ころから急激に数を減らし、１９９７年に絶滅危惧Ⅱ類（環境省レッドリスト）として掲載された。人口栽培は極めて難しい。

【オニバス】:

《現況》多度町の用水路では２００４年の生育は確認できなかった。

《保護対策》生育地は保護されても、発芽する条件が失われている場合もある。用水路の底にたまった泥を撹拌（かくはん）し、発芽を促す必要がある。多度町のオニバスは、地元有志により、保護栽培されている。

【フサタヌキモ】: 日本固有種。

《現況・減少要因》水質汚濁、池沼の改修、池沼の消滅および食虫植物マニアによる採取も影響している。

《保護対策》現存する生育地は非公開とする。水質が改善されれば、現在絶滅と考えられている所でも、出現する可能性はある。

【ヒメシオン】: 湿草原や小川の縁などに生える多年草。

《現況・減少要因》現存が確認できるのは、桑名市長島町の生育地のみ。

《保護対策》生育地の監視、管理とともに、長島町以外の所でも見つかる可能性があるので、人里近い原野の開発には十分な事前調査が必要。

【ミズアオイ】: 水田や浅い沼地に生える。

《現況・減少要因》毎年出現するとは限らない。休眠種子が農地改良や農道敷設（ふせつ）などの土の撹乱によって発芽した時のみに見られる程度である。湖沼開発などにより絶滅に瀕している。

《保護対策》生育地の一部に氾濫原環境を復元した保護区の設置と、保護管理が必要。

町屋川での生きもの調査。７月１０日

五反田の丘陵地